

◆日本史◆ 科目別講評

(1)出題方針

本年度より新課程への移行によって、『日本史 B』から『日本史探究』に変わったが、本学本科目出題の基本方針①②については、例年と同様である。

① 高等学校教科書『日本史探究』の範囲を逸脱しないこと。

教科書の範囲とは、各出版社の『日本史探究』全体を対象とし、その本文はもとより、脚注、口絵・図版・各種の図表及びその解説、史料、年表など、教科書に盛り込まれた内容全体を意味する。

ただし、史料や図表、問題のリード文などについては教科書以外からも出題する。また、教科書への掲載頻度が低い用語はできるだけ避けるが、多面的な歴史理解を求める必要から、やや難しい歴史用語やニュースなどに頻出する時事用語、高校生レベルで身につけていると思われる基本的な語句を使用することもある。しかし、いずれの場合でも、教科書の知識で正答を導き出せるように配慮している。

② 当該年度内の問題全体の中で、時代や分野において偏りがないように出題すること。

この基本方針にもとづいて、本年度は、

(102)中世・対外交渉(60点)／近世・文化(45点)／近現代・社会経済(45点)

(103)古代・社会経済(60点)／近世・外交(45点)／近現代・政治(45点)

(104)古代・文化(51点)／中世・社会経済(51点)／近世～近現代・政治(48点)

(105)古代～中世・政治(60点)／近世・社会経済(45点)／近現代・外交(45点)

(106)古代・外交(51点)／中世・政治(39点)／近世～近現代・文化(60点)

(107)古代・政治(39点)／中世・文化(51点)／近世～近現代・外交(60点)

という時代と分野の枠組み・バランスから出題することとした。

(2)解答状況および解説

各学部・学科別の受験者・合格者の平均点は「受験者・合格者の科目別平均点」(p.10)を参照してほしい。本年度の諸日程のうち、(102)が日本史を選択した受験者全体の平均得点率 63.7%・合格者全体の平均得点率 77.9%とやや低いが、例年の振れ幅の範囲内である。他の日程ではおおよそ、受験者全体平均得点率で 67～75%、合格者平均得点率で 80～86%の幅に収まっている。

以下、日程別の大問ごとの全体傾向を、合格者の平均得点率で示すと、(102)〔Ⅰ〕80.3%〔Ⅱ〕82.7%〔Ⅲ〕70.0%、(103)〔Ⅰ〕74.8%〔Ⅱ〕79.3%〔Ⅲ〕88.0%、(104)〔Ⅰ〕87.3%〔Ⅱ〕82.0%〔Ⅲ〕73.3%、(105)〔Ⅰ〕88.5%〔Ⅱ〕77.3%〔Ⅲ〕73.3%、(106)〔Ⅰ〕85.1%〔Ⅱ〕90.3%〔Ⅲ〕86.0%、(107)〔Ⅰ〕85.9%〔Ⅱ〕86.5%〔Ⅲ〕86.7%である。受験生にとってのおおよその難易度が知れよう。受験者全体の動向でもほぼ同様で、(102)〔Ⅲ〕戦後の社会経済史、(104)〔Ⅲ〕近世～近現代の政治史において平均得点率が6割を切っている。合格者と受験者全体との間の平均得点率に最も大きな差が生じたのも、(102)〔Ⅲ〕戦後の社会経済史である。戦後について大問一つ分出題したことは本学としては新たな試みとなったが、そこが結果的に差のつきやすい分野となった。ただし、これらの大問も、一部に細部にわたる出題を含むとはいえず、基本的には何らかのかたちで教科書で取り扱われている内容である。

個別の設問についての記述解答では、例年と同じく、正確な歴史用語・漢字表記を習得していないための誤答や、設問の指示を見逃す誤答(文字数指定、空欄の文言指定など)も多くみられた。合否を左右するのは、全受験者の正答率が低い設問ではなく、比較的容易な設問群での着実な得点であるため、用語記述の際には細心の注意が必要である。

(3)受験生へのメッセージ

受験上の助言として心がけてもらうことを挙げれば、以下のとおりである。

- ① 出題方針で述べたように、教科書の範囲を大きく逸脱することはないので、まずは教科書を熟読して、基本的な内容を理解することが根本である。また、本学の問題は、歴史用語を記述する問題と記号選択の問題に大別され、どちらかといえば記述問題の方が得点差が大きくなる傾向があるので、歴史用語を漢字で正確に書くこと、設問の指示に注意することなどに、日頃から心がけて学習してほしい。
- ② 個々の知識を大きな歴史の流れの中で理解することが大切である。それによって知識を系統立てて習得できるからである。その際に、時代別だけでなく様々な分野史、たとえば政治史や社会経済史・対外交渉史などを通史的に学習しておくことも有効な方法であろう。対外交渉史では、欧米との関係だけでなく、アジアとの関係について問うことも多い。また、これも出題方針で述べたことだが、各分野を満遍なく問うため、教科書の分野別記載ページ数比率よりもやや文化史や対外交渉史が多くなる傾向にあることにも留意しておきたい。
- ③ 日本史は、現在の日本列島のどこにでもその手がかりを見つけることが可能であり、各地の博物館や美術館などでは多様な文化遺産を目にすることもできる。マスコミなどでとりあげられる年中行事や文化財、発掘調査に関わる情報なども、歴史を身近に感じるきっかけになるだろう。日頃の生活の中で、常に歴史との関わりを意識し、また歴史への関心を育てていただくよう切望する。

◆日本史◆ 出題の意図

| | |
|-------|---|
| 102 | 出題の意図 |
| [I] | 鎌倉末・南北朝・室町期の対外交渉について、さまざまな側面から理解度を確認した。 |
| [II] | 「町衆」に関するリード文をもとにして、江戸時代の文化に関する諸点を問うた。 |
| [III] | 戦後の社会経済史について、理解度の確認をおこなった。 |
| 103 | 出題の意図 |
| [I] | 前半は国指定の特別史跡・史跡となっている古代の遺跡について、さまざまな諸点を問うた。後半は基礎史料である尾張国百姓等解をベースに、平安中期の社会状況を問うた。 |
| [II] | いくつかの史料をもとに、江戸時代の日本の外交に関わるさまざまな点について、理解度を確認した。 |
| [III] | 1930年代の政治史について、基礎的な事項を確認した。 |
| 104 | 出題の意図 |
| [I] | 古代の文化について、さまざまな角度から理解度を確認した。 |
| [II] | 中世の社会や経済について、基礎事項の確認をおこなった。 |
| [III] | 近世から近代にかけての農民・都市民の抵抗運動と政治について、理解度を問うた。 |
| 105 | 出題の意図 |
| [I] | 古代から中世初期にかけての政治史について、基礎的な事項を確認した。 |
| [II] | 近世の商業・流通について、基本事項の確認をおこなった。 |
| [III] | 近現代の外交史について、さまざまな角度から理解度を問うた。 |
| 106 | 出題の意図 |
| [I] | 地図をもちいつつ、古代の対外交渉史について基本的な事項を問うた。 |
| [II] | 南北朝・室町時代の政治史について、基本的な事項の確認をおこなった。 |
| [III] | 近世から明治時代、そして戦後の文化について、諸事項の理解を問うた。 |
| 107 | 出題の意図 |
| [I] | 古代の政治と人物について、基礎的な事項の理解を問うた。 |
| [II] | 鎌倉～室町の文化史について、宗教や身分などを中心に理解度を確認した。 |
| [III] | 室町期から大正期の対外交渉史について、基礎的な事項の確認をおこなった。 |